

# サイクルツーリズム推進に向けた受入環境整備に伴う 経済波及効果推計業務委託 報告書（概要版）

## 1 目的

本調査では、サイクルツーリズムを取り巻く国内や大分県における動向、サイクリストの受入に関するアンケート調査、大分市を訪れたサイクリストによってもたらされる経済波及効果の推計を基に、大分市におけるサイクルツーリズムの現状の把握と今後のサイクルツーリズム推進について考察する。

## 2 国内、大分県、大分市のサイクルツーリズム

### 国内

「自転車活用推進計画（国土交通省 令和3年5月）」において、「サイクルツーリズムの推進による観光立国の実現」を掲げ、国際会議や国際的な大会の誘致やナショナルサイクルルート\*1の指定、国内外へのPR等の施策を推進。宿泊を伴う滞在の必要性を強調。

\*1 ナショナルサイクルルート  
一定の水準を満たすルートを設定する制度。現在国内では6地域が指定。  
右図は実際に指定されている「しまなみ海道サイクリングロード（愛媛県、広島県）」



### 大分県

「大分県自転車活用推進計画2022」において、サイクルツーリズムの推進やサイクルスポーツの振興を記載。県内には12のサイクリングルートを設定。

### 大分市

「第二次大分市自転車活用推進計画（令和7年3月）」において、だれもが安全・快適に自転車を利用できるまちの実現を目指し、自転車ルール・マナーの啓発や放置自転車対策、「OITAサイクルフェス」等のイベントの開催に取り組んでいる。

### インバウンド

日本滞在中に移動手段としてレンタサイクルを利用した人は1.3%にとどまるが、「しまなみ海道サイクリングロード」は世界屈指のサイクリングロードと評価されるなどインバウンド認知も高い。

## 3 アンケート調査結果

サイクリストを受け入れるための環境整備について、関係すると思われる事業者（宿泊施設、観光施設、飲食店）64施設を対象にアンケート調査を実施し、次のとおりの結果となった。

### サイクリストの利用状況

3割の施設が利用ありと回答。

### 受入の意向について

8割の施設が受け入れに前向きな意向。

### 主なサイクリスト向けサービス

「輪行バッグを持ち込んだ施設利用」「手荷物の一時的預かり」「トイレの提供」といった既存のサービスの範囲内で対応。

### 受入設備拡充への課題

「スペースの確保ができない」「需要の不明瞭さ」「高価な自転車に対する責任が取れない」ことが課題となっている。

## 4 サイクリスト誘客に伴う経済波及効果の推計

各種統計資料を基に、大分市を訪れたサイクリスト人数および消費単価、観光消費支出額を推計したところ、次のとおりとなった。

|      | 大分市を訪れた<br>サイクリスト人数<br>(人) *2 | 大分市を訪れた<br>サイクリストの消費単価<br>(円) *3 | 大分市を訪れた<br>サイクリストの<br>観光消費支出額（千円） |
|------|-------------------------------|----------------------------------|-----------------------------------|
| 宿泊客  | 2,561                         | 25,604                           | 65,572                            |
| 日帰り客 | 2,065                         | 3,447                            | 7,118                             |
| 合計   |                               |                                  | 72,690                            |

\*2 \*3 「旅行・観光消費動向調査（観光庁）」「令和6年度大分県観光動態調査報告書（大分県）」  
「共通基準による観光入込客統計（大分県）」を基に推計

算出した「大分市を訪れたサイクリスト観光消費支出額」を発生需要額として、推計した経済波及効果は次のとおりとなった。

### 経済波及効果 97,850千円

直接効果  
69,020千円

第一次間接波及効果  
20,265千円

第二次間接波及効果  
8,565千円

## 5 大分市におけるサイクルツーリズムの推進に向けて

国内外や大分県、大分市のサイクルツーリズムの状況やアンケート調査、経済波及効果を踏まえ、大分市におけるサイクルツーリズムの推進に向けては、次の内容が効果的である。

### 受入環境整備促進の 働きかけ

事業者の理解と協力を得ることが不可欠であり、行政は設備の導入に係る費用の補助など受入環境の底上げを図るための支援を中期的な視点で計画的に実施することが重要。

### 効果的な情報発信

行政がサイクリストの受入体制が整った事業者や市内のサイクリング周遊ルートなど、サイクリングに関する情報を積極的に発信する。

### ブランドとなる サイクリングロードの設定

大分県内に市町村を跨ぐ「看板ルート」を設定。大分市は地理的優位性や交通の利便性を活かし、県内周遊における活動拠点となることでサイクルツーリズムにおける地位を確立する。

### 交通インフラの活用

関西・四国方面とのフェリー航路や別府国際観光港のクルーズ船といった交通インフラを活用し、広域的なサイクリストの誘致戦略の構築を図る。

### サイクリングイベントの 誘致・開催

自然景観をめぐりながら楽しめるロングライド形式の新たなサイクルイベントの誘致・開催を検討し、より幅広い層のサイクリストを取り込む。